

# 熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2018

## 病害虫防除のためのイチゴ蒸熱処理における生育・収量に影響しない処理時期と処理条件

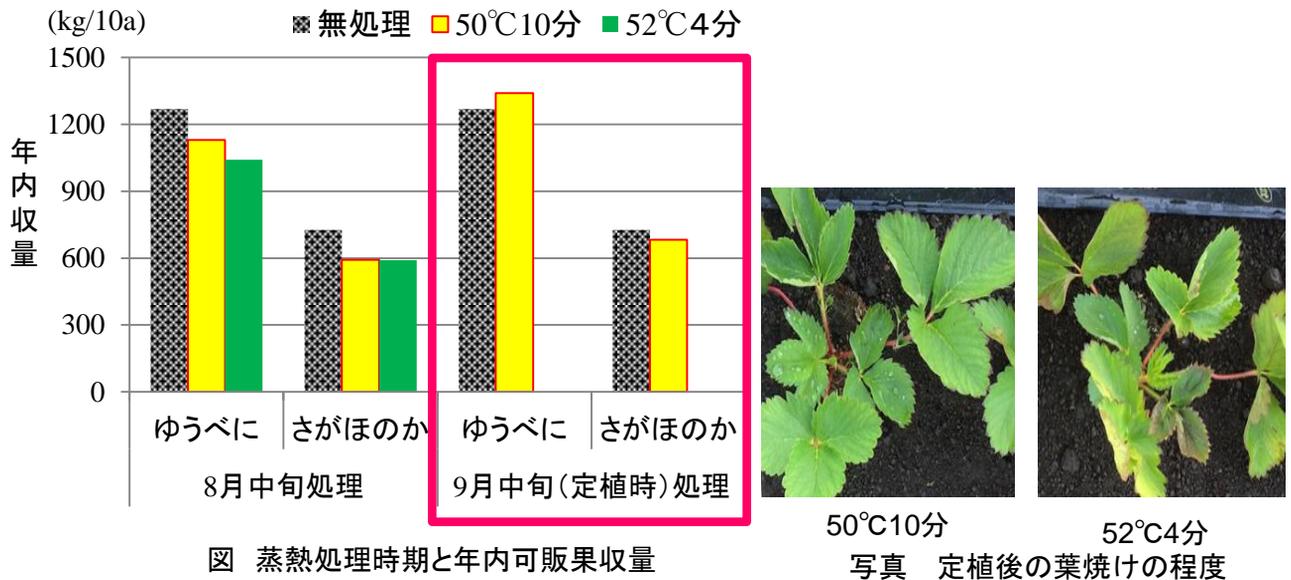


図 蒸熱処理時期と年内可販果収量

### 問 研究のねらいは？

答 飽和水蒸気の熱を利用する「蒸熱処理」は、イチゴ苗に寄生するハダニ・うどんこ病等の病害虫を同時に防除できる物理的防除技術として開発されました。そこで、促成作型イチゴの苗に蒸熱処理装置を利用した場合の影響を解明しました。

### 問 処理条件と生育・収量への影響

- 答
- ① 「ゆうべに」等の早生系品種においては、8月中旬処理で年内収量の低下が見られますが、定植時(9月中旬)50°C10分処理は、年内収量の低下がありません。
  - ② 定植時(9月中旬)処理で、定植後に葉焼けがみられますが、52°C4分より50°C10分が軽度で、生育への影響もありません。

### 問 栽培または普及するうえで注意する点は？

答 定植時に50°C10分の時期と条件を遵守してください。  
蒸熱処理の手順はマニュアル※を遵守してください。

※「九州を中心とした暖地向けイチゴ苗蒸熱処理防除マニュアル2017」